



[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク 〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-17-11 エコロジーラボD - 1
郵便振替 00920-8-154437 年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)
TEL:06-6462-2775 携帯:090-8989-5182(代表山口) <http://www.geocities.jp/gcon-osaka> gcon-osaka@yahoo.co.jp

小さな町の大きな取り組み 高知県ゆすはらちょう梼原町から学ぶ

一人一人のグリーンな消費者が循環型経済の大きな流れに

東北関東大震災から 3 年、多くの犠牲者と住む場所をなくした方々の苦悩はいまだに続いています。とりわけ福島では、福島第 1 原発の過酷事故が発生し、放射能汚染が収集しないまま避難者は 8.5 万人 (H26.2.13 現在:復興庁データより)、大阪へも多くの方々が避難してきています。今福島では、残るも地獄、去るも地獄の日々が続いていると、幼児をかかえた母親から胸の内を聞かせていただきました。

原発事故が収集したかのような、政府のエネルギー政策の大転換、「原発依存から再生エネルギーへ」が「原発再稼働、原発の積極的輸出」へと大きく舵をきりました。なぜ今なのか。

今まで育てて幾年も続いてきた自然界の営みを将来の世代に繋いでいく役割は、その時に生きる一人ひとりにあります。その最善の道は、誰でもがグリーンコンシューマーになること、今年も普及に努めてまいります。

自然エネルギーによる町づくりに 挑戦する梼原町 ECO ツアー報告



<写真説明:隣町の津野町風車の駅から見える石鎚連峰に並ぶ風車群。その先に梼原町の風車 2 基は姫鶴高原の牧場の中にある >



<写真説明:梼原町の庁舎、地元の木材とカヤで建てられている。設計は国際的に活躍する隈研吾氏 >

小さな町の大きな挑戦の ECO ツアーは、徳島県勝浦郡上勝町のゼロウエストから始まりました。第 2 弾として訪れたのは、台風一過の昨年 9 月 20、21 日、環境モデル都市であり、坂本龍馬が脱藩するときに足跡を残した町としても有名な梼原町。1100 年の文化と暮らしを知る歴史民俗資料館で町の歴史をざっと学習しました。

この館の空調の熱源は、木質ペレットチップでした。(2 ページに続く)

自然と共生する智慧は棚田にあった！！

神在居（こんざいこ）の見事な千枚田



かつて町を訪れた故司馬遼太郎氏は、「農業が築き上げた日本のピラミッド、万里の長城にも匹敵する」と称賛された神在田の棚田の全景を見るには、かなり離れた展望台から遠景でみることができました。神在居は棚田百選の一つで、同じく上勝町かしだの檜田の棚田と共通するのは、山間部での米づくりは、長い年月をかけ山の斜面を少しずつ平らにし何枚もの段々にする村人の共同作業の積み重ね。そして米作り必要な清らかな水は、山林の手入れが大切にしてこそ湧き出でてくること。昔の人の智慧と努力にあらためて感服しました。町では、四万十川の源流地にちなみ 100 m²を「しまんとえん四方十円」として、遠くの消費者に農作業にも参加してもらおう千枚田オーナー制度として都市農村交流モデルを生みだしました。



↑ 歴史資料館の冷暖房の熱源に木質ペレット発電装置



環境モデル都市事業のけん引役は

役場は企画立案、情報発信、ガイド役として、商工振興協同組合が担っています。まず、町の知名度を上げるために、世界的に有名な建築家隈研吾氏による町産材を使ってのユニークなデザインの建屋。総合庁舎と雲の上ホテル別館マルシェ・ユスハラが町の景観に収まり、メイン通りは電柱の地中化ですっきり。光熱は、太陽光と木質ペレットが主原料と徹底していました。

小水力発電は、栲原川の堰に設けた6mの落差を活かしエネルギー転換をして、日中は近くの中学校で、夜間は街路灯で使われています。

雲の上ホテルに隣接する温水プールは、地下100mまで掘削し設置した27本のパイプで地熱ゾンデにより採取した地中熱をヒートポンプで圧縮して加熱する方法で、水温30℃で四季を問わず町民の老若男女が利用しているとのこと。

宿泊客は、この温泉を利用するために、くぎを一本も使わない寺院建築の渡り廊下を利用、そのスペースは木の香り漂うギャラリーとなっています。

ユスハラ流おもてなしは



旅人へのお接待場「茶党」の歴史にあり



芝居小屋といえば、香川県琴平さんの歌舞伎座が日本最古（1,835年建設）が有名ですが、梶原町には、**高知県唯一の木造芝居小屋「ゆすはら座」**があります。戦後の1948年に、大正建築の和洋折衷様式の公民館として、町民の交流拠点として建てられました。

今は、神楽の上演や街づくり講座、各種講演会会場として活躍中とのことでした。



町の入口には、**旅人へのお接待所、社交場、神聖な場所として町民が集う「茶堂」**が大切に保存されていました。

幕末は、この町の出身であった土佐勤皇党天誅組で活躍した吉村虎太郎をはじめ「六志士の墓」が大切に祭られていました。また、脱藩した坂本龍馬が駆け抜けた三嶋神社横の道に思いを馳せたひと時でした。

町を後にして、日本の三大カルストの四国カルスト高原に建つ「ゆすはら風力発電」の2基の巨大な風車（高さ50m）は、観光地として人気の姫鶴平（めずるだいら）の広大な牧場に立っています。日本で一番高い所1,300mに1基で1時間に600kWの発電量で四国電力に売電されています。

帰路は、**四万十川の源流地点を訪ね**、カルスト台地の地下から長い年月を経て、複数個所から湧水となり、四万十川の清流となっていくたゆまぬ自然の力を後にしました。

自然との畏敬と共存する人間の生きる知恵を学んだECOツアーでした。【文責：土肥正将】

